

《活動報告》

Kyoto University Ancient History Seminar,
14 October, 2022

藤 井 崇

2022 年 10 月 2 日から 10 月 15 日まで、スロバキア共和国のルジョンベロク・カトリック大学文学部（Faculty of Arts and Letters, Catholic University in Ruzomberok）のマレク・バビッチ（Marek BABIC）博士が京都大学大学院文学研究科西洋史学専修を訪問された。欧州連合（EU）のエラスムス・プログラムの援助による来日である。

バビッチ博士は、後期ローマ帝国を中心とする古代史の研究者で、アウグスティヌス『神の国』における異教文化に関する博士論文によって、プラチスラバのコメンスキー大学で 2006 年に博士号を取得した。2009 年には、後期ローマ帝国に関する著作 *Od antiky k stredoveku: dejiny neskorého rímskeho cisárstva medzi rokmi 284–476* を発表している。2000 年以降、ルジョンベロク・カトリック大学で教鞭をとり、2017 年に准教授となった。2015 年以降は、文学部長を務めている。

滞日中は、バビッチ博士と西洋史学専修の学生、院生、教員のあいだで活発な学術交流がおこなわれ、セミナーが 2 回開催された。このセミナーのうち、内容的に西洋古代史に特に関わる 10 月 14 日の Kyoto University Ancient History Seminar の様子を、ここで報告したい（添付のプログラムを参照）。

このセミナーは、河島思朗准教授に多大なご助力をいただき、文学研究科西洋古典学専修との共催という形でおこなわれた。まずバビッチ博士が、帝政期ローマ帝国の西方ラテン語圏における市壁と門の文化的意義について報告をおこなった。その後、西洋史学専修所属の学生、院生が、各自の研究プロジェクトを紹介した。学部の田中のえ氏と藤本俊哉氏は、それぞれローマ帝国辺境地域の家畜とヘレニズム期シチリアについて、修士課程の坂野水咲氏は初期キリスト教における食について、博士後期課程の岡本幹生氏は帝政期初期におけるアウグストゥスの記憶について、報告をおこなった。バビッチ博士を交えた質疑応答も実に充実したものとなり、コロナ禍で途絶えていた海外との学術交流の再開にあたって、よいスタートをきることができた。

Kyoto University Ancient History Seminar
14 October, 2022
Department of European History
In Collaboration with the Department of Classics
Graduate School of Letters, Kyoto University

Programme

- 16.45 Welcome
- 16.50 Marek Babic (Catholic University in Ružomberok)
City Walls and Gates and Their Cultural Significance in the Latin Part of the Roman Empire in the Imperial Period
- 17.50 Mikio Okamoto (Kyoto University)
Reconstructing Memory of Augustus in the Early Roman Empire
- 18.20-18.30 Break
- 18.30 Misaki Banno (Kyoto University)
Diet and Virtue in Early Christianity: The Effect on Its Expansion
- 19.00 Noe Tanaka (Kyoto University)
Animal Husbandry and the Roman Frontier: How Did the Arrival of the Army Affect the Local ?
- 19.30 Shunya Fujimoto (Kyoto University)
Evergetism in Ancient Sicily
- 20.00 Concluding Remarks

Venue: Conference Room (B1), Main Building of the Graduate School/ Faculty of Letters

Contact: Takashi Fujii (fujii.takashi.3c@kyoto-u.ac.jp);
Shiro Kawashima (kawashima.shiro.7x@kyoto-u.ac.jp)



京都大学
KYOTO UNIVERSITY